



荒瀧議員

### Q リーダーシップについて

A 筆の都くまのに愛着を持ち  
住み続けたい町にしていきたい (三村町長)

町長就任後、3つの視点から所信表明を行った。①三世代が輝く暮らしを  
はぐくむ熊野づくり②活力をはぐくみ、地域力を高める熊野づくり③筆産地の歴史と文化を未来につなぐ熊野づくり。

第五次総合計画のまちづくり重点プロジェクトについては、次の基本的視点を掲げ、重点的かつ横断的に施策を推進していく。①地域力の強化②快適暮らしの創造③筆の都の活性化。

政治家としてどんな所感を持っているか。第五次総合計画の重点は、また今後の抱負について。



藤本議員

### Q プレミアム付商品券

A 関係機関と協議し  
支援できるよう努めたい(石井地域振興課長)

商工会からの実績報告書によると、大型店5店舗を含め、町内の商工業者114店が参加。発行済買い物券16万5千枚のうち99・87%が回収、換金されている。また、大型店での利用率は43・6%にとどまり、既存商店、小規模事業所での消費拡大に一定の効果があったものと考えている。

平成21年に商工会が特典付商品券を発売したが、実績等正式な数字を出して欲しい。また、効果があったのであれば、再度発行できるだけの財政援助をお願いしたい。

民法議員

### Q 環境センターへ一時的に多量に出る家庭ごみの搬入

A 庭木の剪定による家庭ごみの直接搬入は  
拡大するよう検討したい (沖田生活環境課長)



▲環境センター

庭木の剪定により排出される家庭ごみは、一時的に多量となるため、ごみステーションは2袋まで、環境センターは5袋までとしているが、環境センターへの直接搬入については、来年度から10袋まで拡大するよう検討したい。

家庭で剪定された庭木や、子供会の行事等で発生した多量のごみは、環境センターへ一時的に仮置きすることはできないのか。

### Q 民泊の推進

A 熊野町においては個人体験型を  
検討していきたい(三村町長)



民法議員

最近の修学旅行は、観光型から体験交流型へ移行しつつあり、一般家庭に宿泊する民泊が活用されている。本町でも、筆職人と若い世代の交流を目的に、書道文化交流促進事業を実施した。これについては、2年に一度程度で継続していきたい。

昨夏、全国から書道を専攻する大学生が訪れ、筆職人宅などに民泊して筆づくり体験をした。この事業は継続するのか。また、筆づくり体験などを看板にした民泊を本格的に推進してはどうか。

8人の議員が一般質問を行い、町の施策等について町執行部と議論を交わした。